

リハ
めいる

2022
8月.

頭にe（良い）スポーツは意思決定支援の連続 ～社会参加支援から意思決定支援まで～

eスポーツは「エレクトロニック・スポーツ」の略で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦型競技です。オンラインで操作方法を工夫することで誰でも参加できるeスポーツは、障がいを超えて社会的な交流を作り出すことができる可能性をひめています。最近では数多くの障害者施設や老人施設などに導入され、プロのゲーマーも誕生しています。

【eスポーツの可能性】

eスポーツは医療的な分野でも注目を集めており、ゲームをすることで「脳の司令塔」とも呼ばれる前頭葉が活性化されることが報告されています。

※前頭葉は意欲・計画・実行に関与

【eスポーツ×意思決定支援】

eスポーツは、小さな意思決定の連続です。自分の意思で「キャラクターを選ぶ」「どのコースにする」などを決めることは、自分の意思が尊重されたという成功体験につながり、自分の意思を伝える意欲を育むきっかけになります。また、障がいの状態に合わせてコントローラーを工夫し操作することは、コミュニケーション機器の操作練習にもなります。

【障がい者はどのようにゲームを操作するの？】

手が震えてボタンが押せない人には大きなボタンに変更したり、手足が動かない人には顎や首の動きで操作できるようにジョイスティックやポイントタッチスイッチなどを使用したりします。一人で全ての操作をすることが難しい場合には、方向キーを動かす人・決定ボタンを押す人などに分かれて二人一組でゲームをすることもあります。

緑風園には様々なスイッチがあるため、今後eスポーツの導入を検討するのであればOT清水までお声掛けください。



リハビリテーション科 OT 清水